FT-施要-第 09004D号

2015 年 10 月 2 日

ケーブル等防火区画壁・床貫通部防火措置工法

「プチロクワイド®」

ケーブル等共住区画壁・床貫通部防火措置工法

「プチロクワイド®消防キット」

施工要領書

古河電気工業株式会社

株式会社古河テクノマテリアル

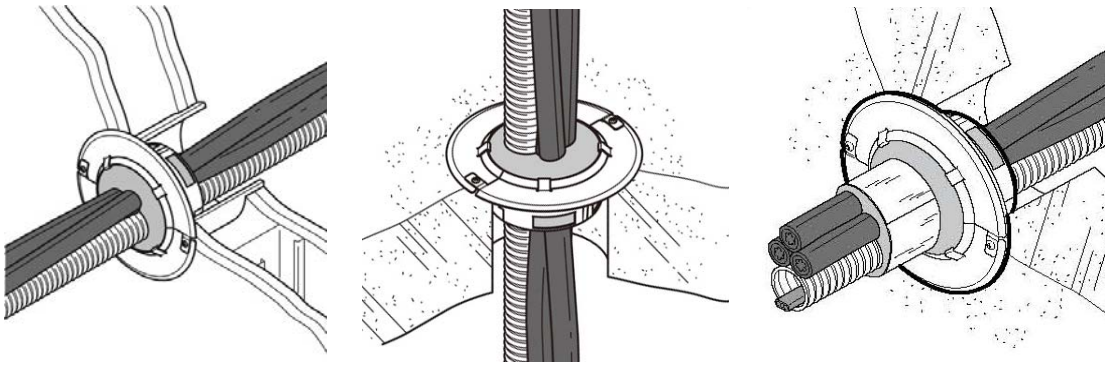
1. 工法概要

プチロクワイドおよびプチロクワイド消防キット(以下、本製品)は、ケーブル、合成樹脂製可とう電線管(PF・CD 管)等が防火区画/共住区画の壁および床を貫通する部分に適用する防火措置製品です。

本製品は、誰が施工しても安定した施工品質が得られるよう壁片側または床上側1箇所を防火措置するために必要な部材が揃ったキット製品となっています(表-1)。また、開口寸法に応じて壁用は2品番、床用は4品番をラインナップしています。

図1に、本製品の施工例を示します。

本製品は、簡単に取付け・取外しが出来る設計となっているため、再通線工事や短期工事に対応できるところが最大の特長です。



プチロクワイド
中空間仕切壁

プチロクワイド
鉄筋コンクリート床

プチロクワイド消防キット
鉄筋コンクリート壁

図1 本製品の施工例

表-1 本製品ラインナップ

プチロクワイド	プチロクワイド消防キット	適用開口径 (㎜)	適用躯体 (防火区画/共住区画)	
			壁	床
PW-75	PWS-75	φ80	○	○
PW-100	PWS-100	φ110	○	○
PW-125	PWS-125	φ135	―	○
PW-150	PWS-150	φ159	―	○

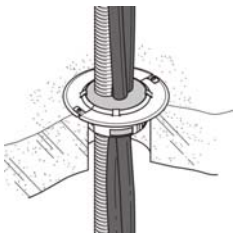
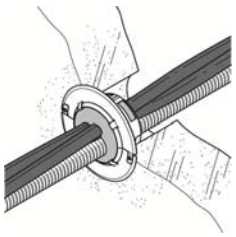
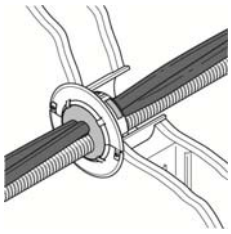
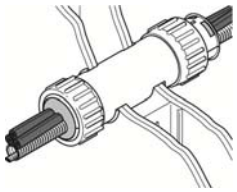
(※)PW-125、150は、認定外のため防火区画および共住区画の壁にはご使用できません。

2. 防耐火性能と適用範囲

2.1 国土交通大臣認定

本製品は、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 5 第 1 項第七号ハ「防火区画貫通部 1 時間遮炎性能」の規定に適合するものとして、国土交通大臣認定を取得しています(表-2)。

表-2 本製品の国土交通大臣認定適用範囲

適用躯体 (国土交通大臣が認定した壁・床)		防火区画床	防火区画壁		鋼製電線管貫通
		鉄筋コンクリート(RC)・ALC 床	鉄筋コンクリート(RC)・ALC 壁	中空間仕切壁(※1)	鉄筋コンクリート(RC)・ALC 壁・中空間仕切壁(※1)
国土交通大臣認定番号		PS060FL-0510	PS060WL-0367	PS060WL-0367	PS060WL-0368
施工図					
壁または床厚(㎜)		100 以上	80 以上	80 以上	80 以上
施工条件	開口寸法(㎜) または鋼製電線管サイズ	φ159 以下	φ110 以下	φ110 以下	開口寸法φ113.4 以下 鋼製電線管 104 以下(※2)
	施工方法 (施工に必要なキット数)	床上施工(1 組)	片側施工(1 組)	片側施工(1 組) 両側施工(2 組)	両側施工(2 組)
	鋼製開口枠 (板厚≧0.25 ㎜)	不要	不要	片側施工:必要 両側施工:不要	不要
	ダンシール-P 充てん処置長(㎜)	5 以上	5 以上	5 以上	5 以上
貫通物条件	占積率(%)	35.4 以下	44 以下	44 以下	45.2 以下
	1 心あたりのケーブル 導体断面積(mm^2)	250 以下(6,600V)	150 以下(6,600V)	150 以下(6,600V)	325 以下(6,600V)
	合成樹脂製可とう電線管 適用呼び径	PF 管:36 以下 CD 管:28 以下	PF 管:28 以下 CD 管:通線不可	PF 管:28 以下 CD 管:通線不可	PF 管:28 以下 CD 管:通線不可
	混在貫通	いずれもケーブルと合成樹脂製可とう電線管(PF・CD 管)の混在貫通に対応可能			

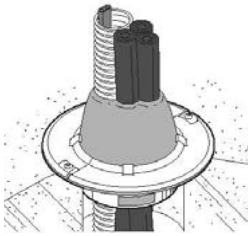
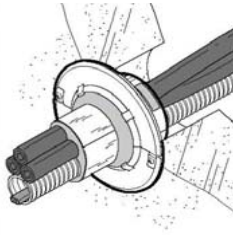
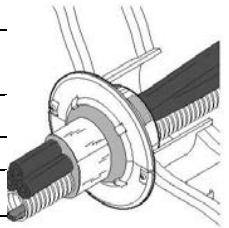
(※1)中空間仕切壁は、両面強化石こうボード重張となります。

(※2)鋼製電線管長さは 300 ㎜以上となります。

2.2 (一財)日本消防設備安全センター評定(共住区画)

本製品は、特定共同住宅等の住戸等の床又は壁並びに当該住戸等の床又は壁を貫通する配管等及びそれらの貫通部が一体として有すべき耐火性能を定める件」(平成 17 年消防庁告示第 4 号)に規定された耐火性能を有しているものとして、(一財)日本消防設備安全センター評定を取得しています(表-3)。

表-3　本製品の(一財)日本消防設備安全センター評定(共住区画)適用範囲

適用躯体(国土交通大臣が認定した壁・床)			共住区画床		共住区画壁		
			鉄筋コンクリート(RC)・ALC 床		鉄筋コンクリート(RC)・ALC 壁		中空間仕切壁 
(一財)日本消防設備安全センター評定番号(国土交通大臣認定番号)			KK23-003 号(PS060FL－0510)		KK24-001 号(PS060WL－0545)		KK23-008 号(PS060WL－0545)
壁または床厚(㎜)			100 ㎜以上		100 ㎜以上		100 ㎜以上
施工条件	開口寸法(㎜)		φ159 以下		φ110 以下		φ110 以下
	施工方法(施工に必要なキット数)		床上施工(1 組)		片側施工(1 組)		片側施工(1 組)
	鋼製開口枠(板厚≧0.25mm)		不要		不要		必要
貫通物条件(※)	通線物の適用種類および通線本数(1 開口あたり)	開口φ80 ㎜(適用:PWS-75)	・600V　IV38 ㎟以下×1 本以下(IE 可) ・600V　CVT100mm²以下×1 条以下(CET 可) ・光ケーブル(外径 13.5 ㎜)×3 本以下 ・PF管呼び径 14×1 本以下 (管内:ケーブル合計断面積 22 ㎟以下)	・600V　IV38 ㎟以下×1 本以下(IE 可) ・PF管呼び径 22×1 本以下 (管内:ケーブル合計断面積 22 ㎟以下) ・PF管呼び径 16×2 本以下 (管内:ケーブル合計断面積 22 ㎟以下)	・600V　IV38 ㎟以下×1 本以下(IE 可) ・600V　CVT100mm²以下×1 条以下(CET 可) ・光ケーブル(外径 13.5 ㎜)×3 本以下 ・PF管呼び径 14×1 本以下 (管内:ケーブル合計断面積 22 ㎟以下)	・600V　IV38 ㎟以下×1 本以下(IE 可) ・PF管呼び径 22×1 本以下 (管内:ケーブル合計断面積 22 ㎟以下) ・PF管呼び径 16×2 本以下 (管内:ケーブル合計断面積 22 ㎟以下)	同左
		開口φ110 ㎜(適用:PWS-100)	・600V　IV38 ㎟以下×1 本以下(IE 可) ・6600V　CVT150mm²以下×1 条以下(CET 可) ・光ケーブル(外径 13.5 ㎜)×2 本以下 ・PF 管呼び径 22×1 本以下 (管内:ケーブル合計断面積 22 ㎟以下) ・CD 管呼び径 16×1 本以下 (管内:ケーブル合計断面積 22 ㎟以下)	・600V　IV38 ㎟以下×1 本以下(IE 可) ・PF管呼び径 28×3 本以下 (管内:ケーブル合計断面積 44 ㎟以下)	・600V　CV3C38 ㎟以下×1 本以下(CE 可) ・6600V　CVT150mm²以下×1 条以下(CET 可) ・光ケーブル(外径 13.5 ㎜)×3 本以下 ・PF管呼び径 28×1 本以下 (管内:ケーブル合計断面積 44 ㎟以下)	・PF管呼び径 28×4 本以下 (管内:ケーブル合計断面積 44 ㎟以下)	同左
		開口φ130 ㎜(適用:PWS-125)	・600V　IV60 ㎟以下×1 本以下(IE 可) ・6600V　CVT250mm²以下×1 条以下(CET 可) ・PF 管呼び径 22×2 本以下 (管内:ケーブル合計断面積 22 ㎟以下) ・CD 管呼び径 14×1 本以下 (管内:ケーブル合計断面積 22 ㎟以下)	・600V　IV60 ㎟以下×1 本以下(IE 可) ・PF 管呼び径 28×4 本以下 (管内:ケーブル合計断面積 44 ㎟以下) ・CD 管呼び径 16×1 本以下 (管内:ケーブル合計断面積 22 ㎟以下)	認定外のため施工不可		
		開口φ159 ㎜(適用:PWS-150)	・600V　IV60 ㎟以下×1 本以下(IE 可) ・600V　CV3C×22mm²以下×1 本以下(CE 可) ・6600V　CVT250 ㎟以下×1 条以下(CET 可) ・光ケーブル(外径 13.5 ㎜)×13 本以下	・PF 管呼び径 36×1 本以下 (管内:ケーブル合計断面積 66 ㎟以下) ・CD 管呼び径 28×1 本以下 (管内:ケーブル合計断面積 44 ㎟以下)			

(※)様々な施工条件を考慮し、最大貫通サイズ及び本数で取得しています。実際の施工につきましては、各品番の樹脂スリーブ有効措置径内に収まるようにしてください。

3. 標準施工図

本工法の標準施工図を図-2～9 に示します。

4. 製品別仕様

4.1 プチロクワイド

表-4 にプチロクワイドの品番別キット構成仕様を示します。

表-4 プチロクワイド 品番別キット構成仕様

品番	適用			キット構成部材					梱包数
	防火区画		開口径 (㎜)	鋼製化粧蓋付 樹脂スリーブ	ダンシール-P 40×100×5t(㎜)	固定ねじ M4×38(㎜)	取扱説明書兼 工法表示ラベル 請求ハガキ	工法表示 ラベル	
	壁	床							
PW-75	○	○	φ80	2 個	3 枚/袋	2 本	1 部	1 枚	1 組
PW-100	○	○	φ110		4 枚/袋				
PW-125	－	○	φ135		6 枚(3 枚/袋×2 袋)				
PW-150	－	○	φ159		8 枚(4 枚/袋×2 袋)				

4.2 プチロクワイド消防キット

表-5 にプチロクワイド消防キットの品番別キット構成仕様を示します。

表-5 プチロクワイド消防キット 品番別キット構成仕様

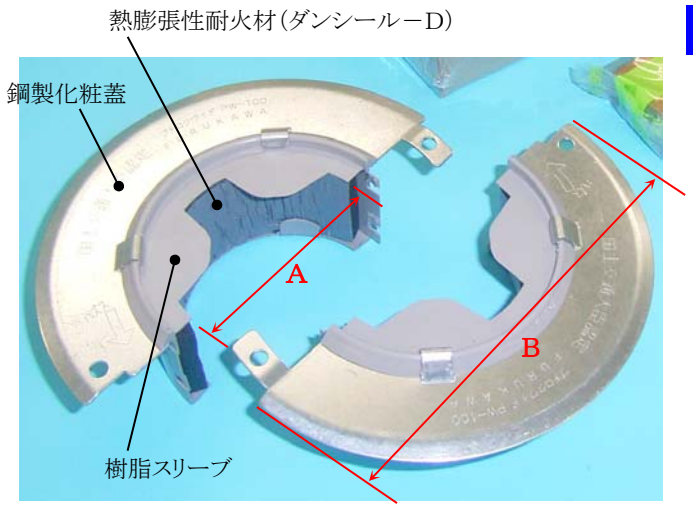
品番	適用			キット構成部材						梱包数
	共住区画		開口径 (㎜)	鋼製化粧蓋付 樹脂スリーブ	ダンシール-P 50×100×5t(㎜)	アルミガラス クロステープ	固定ねじ M4×38(㎜)	取扱説明書兼 工法表示ラベル 請求ハガキ	工法 表示 ラベル	
	壁	床								
PWS-75	○	○	φ80	2 個	8 枚 (4 枚/袋×2 袋)	1 枚 (50×190 ㎜)	2 本	1 部	1 枚	1 組
PWS-100	○	○	φ110		17 枚 (3 枚/袋×3 袋) (4 枚/袋×2 袋)	1 枚 (50×310 ㎜)				
PWS-125	－	○	φ135		16 枚 (3 枚/袋×4 袋) (4 枚/袋×1 袋)	なし				
PWS-150	－	○	φ159		22 枚 (3 枚/袋×2 袋) (4 枚/袋×4 袋)	なし				

5. 適用部材および構成

5.1 鋼製化粧蓋付樹脂スリーブ

鋼製化粧蓋付樹脂スリーブは、プチロクワイドおよびプチロクワイド消防キットともに同仕様となっています。半割れ状の樹脂スリーブに半割れ状の鋼製化粧蓋が取付けられている部材を 1 個とし、キットにはこれが 2 個入っています(図 2)。

施工の際は鋼製化粧蓋を必要に応じて着脱してから 2 つを嵌め合せて使用します。尚、樹脂スリーブの内側には火災の熱(約 200℃)で反応して膨張する熱膨張耐火材(ダンシール-D)が取り付けられています。



品番		寸法(㎜)	
プチロクワイド	プチロクワイド消防キット(※)	A (樹脂スリーブ有効措置径)	B (鋼製化粧蓋最外径)
PW-75	PWS-75	φ48	φ131
PW-100	PWS-100	φ76	φ163
PW-125	PWS-125	φ92	φ184
PW-150	PWS-150	φ112	φ212

(※)プチロクワイド消防キットは、様々な施工条件を考慮し(一財)日本消防設備安全センター評定内貫通物条件を最大貫通サイズ及び本数で取得しています。よって、実際の施工につきましては、各品番の樹脂スリーブ有効措置径内に収まるようにしてください。

図 2 鋼製化粧蓋付樹脂スリーブ

5.2 ダンシール-P

ダンシール-P は、プチロクワイドおよびプチロクワイド消防キットともに同仕様となっています。粘土のような柔らかい素材で、板状成形品となっており、ポリエチレン製の梱包袋に表-4 または表-5 に示した数量が収納されています。

図 2　ダンシール-P

5.3 固定ねじ

固定ねじは、プチロクワイドおよびプチロクワイド消防キットともに同仕様となっています。1 本あたり M4×38 ㎜のプラグレスアンカーで、ポリエチレン製の梱包袋に表-4 または表-5 に示した数量が収納されています。

5.4 アルミガラスクロステープ

アルミガラスクロステープはダンシール-P 落下防止用として、多量にダンシール-P を充てんする必要があるプチロクワイド消防キットにのみ入っています。表-4 または表-5 に示した数量が、畳んで輪ゴム止めされた状態で収納されています。

5.5 取扱説明書

プチロクワイド用取扱説明書には、工法表示ラベル請求ハガキが、プチロクワイド消防キット用取扱説明書には、工法表示ラベル＋消防評定プレート請求ハガキが付いています。附属の工法表示ラベルを紛失した場合あるいは消防評定プレートを請求する場合、必要事項を記入後、取扱説明書から切り取り、弊社へ送付してください。ご確認が取れ次第、送付させて頂きます。尚、ラベルあるいはプレートの到着は、発送後、概ね 2～3 日ほどを目安としてください。

6. 施工手順

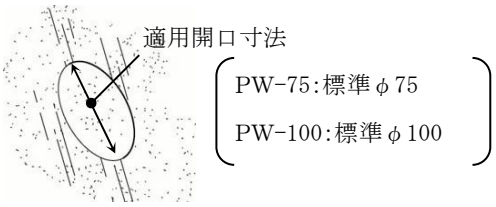
6.1 プチロクワイド

6.1.1 防火区画壁貫通部

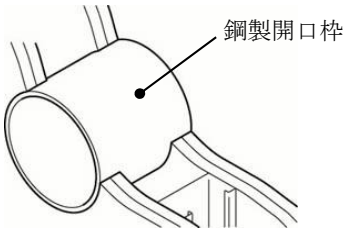
(A)片側施工

① 施工前の確認

開口が認定条件に記載の適用開口寸法通りであることを確認して下さい。特に、中空間仕切壁に施工する場合には、必ず図のように鋼製開口枠(板厚≧0．25mm)を設置して下さい。



通常開口貫通部

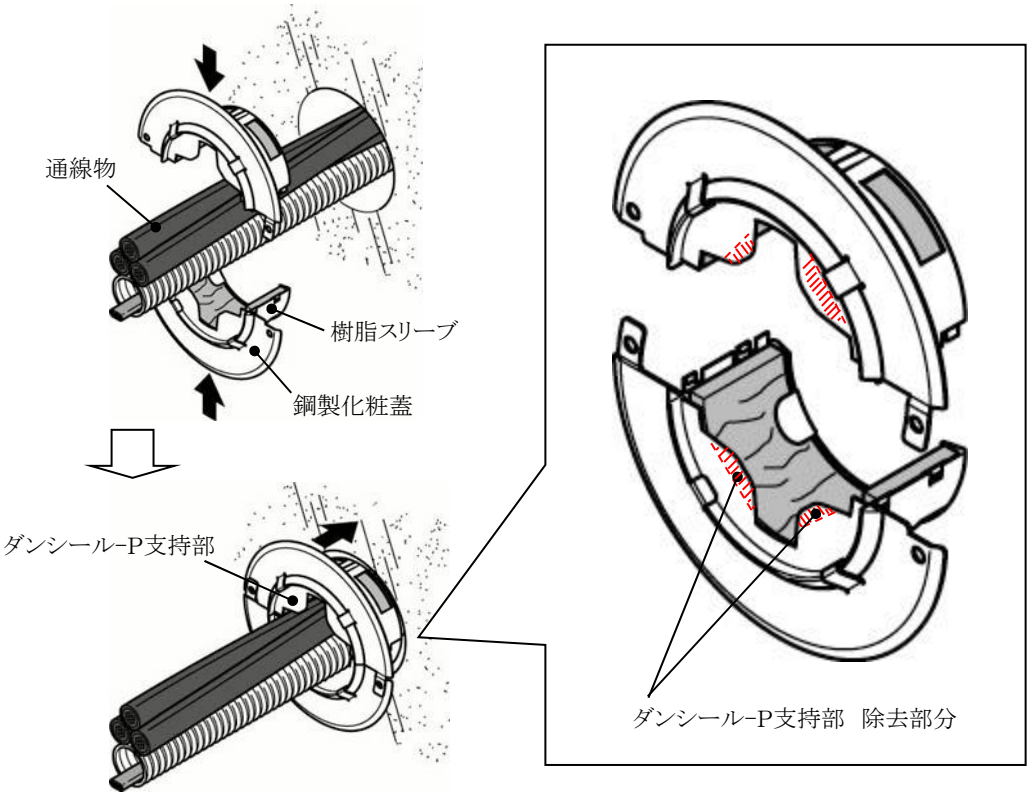


中空間仕切壁貫通部断面図

② 鋼製化粧蓋付き樹脂スリーブの設置

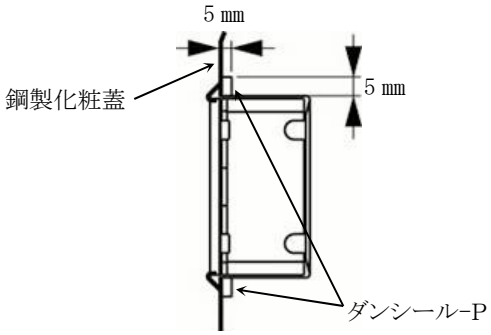
鋼製化粧蓋付き樹脂スリーブを、通線物に挟んではめ合わせ開口へ挿入して下さい。

この時、通線物量に応じて、樹脂スリーブ内側のダンシール-P支持部をペンチなどで取り除いて下さい(下図の斜線部)。



尚、下表の開口寸法に設置する場合、必ず下図に示す位置にダンシール-Pを取り付けてください。

品番	設置開口寸法(mm)
PW-75	77.5～80
PW-100	105～110



鋼製化粧蓋付き樹脂スリーブ断面図

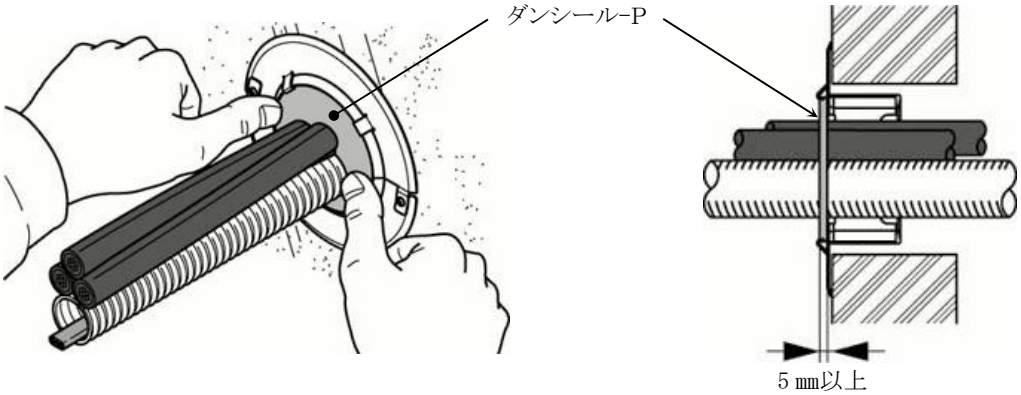
③ 鋼製化粧蓋付樹脂スリーブの固定

鋼製化粧蓋のねじ穴 2 箇所に、付属の固定ねじをドライバーなどで固定してください。

尚、鉄筋コンクリート壁の場合、予めφ3.4 ㎜のドリルで深さ約 48 ㎜まで下穴をあけてください。

④ ダンシール-Pの充てん

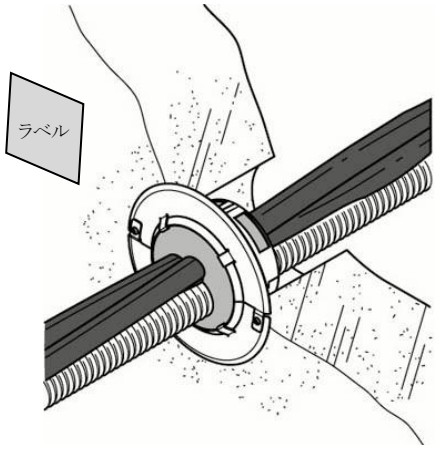
樹脂スリーブと通線物の間にダンシール-Pを厚さ 5 ㎜以上隙間無く充てんして下さい。



⑤ 施工完了

ダンシール-P充てん状況を確認し、表面に凹凸がある場合、ならして仕上げてください。

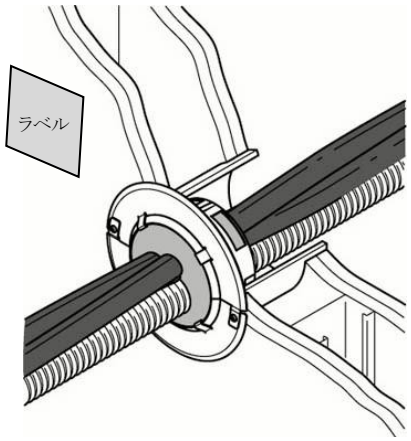
附属の工法表示ラベルを開口の見える位置に貼り付けてください。



【片側施工例 1】

中空間仕切壁

（ケーブル、合成樹脂可とう電線管混在貫通）



【片側施工例 2】

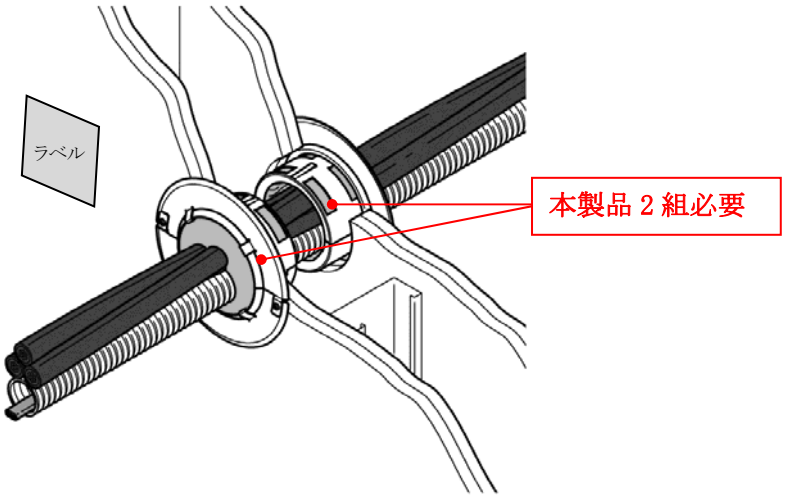
鉄筋コンクリート・ALC壁

（ケーブル、合成樹脂可とう電線管混在貫通）

(B) 両側施工

中空間仕切壁で、開口鋼製枠が設置されていない（設置しない）場合、両側施工となります。この場合、壁の裏側も手順①～⑤と同様に施工してください。

尚、両側施工の場合、本製品は2組必要となりますのでご注意ください。



【両側施工例】

中空間仕切壁

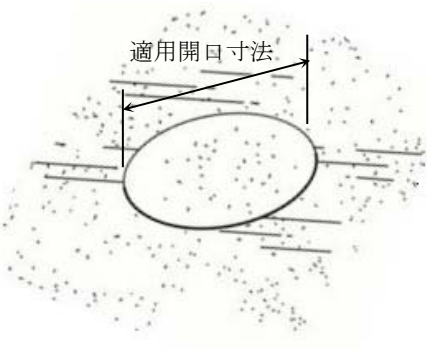
（ケーブル、合成樹脂可とう電線管混在貫通）

6.1.2 防火区画床貫通部

① 施工前の確認

開口が認定条件に記載の適用開口寸法通りであることを確認して下さい。

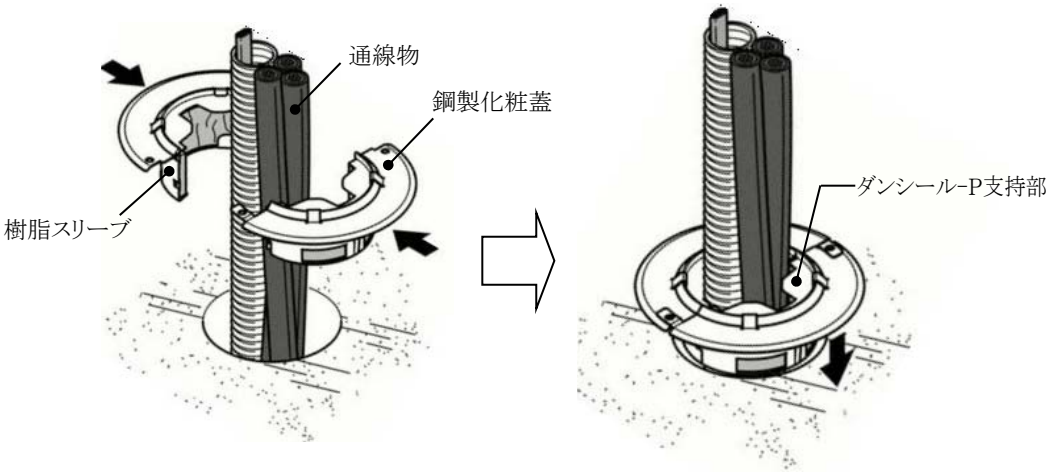
PW-75:標準φ75 ㎜
PW-100:標準φ100 ㎜
PW-125:標準φ125 ㎜
PW-150:標準φ150 ㎜



② 鋼製化粧蓋付きスリーブの設置

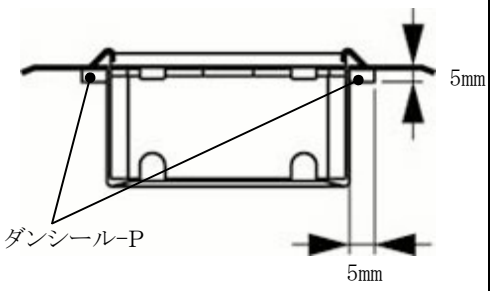
鋼製化粧蓋付き樹脂スリーブを、通線物に挟んではめ合わせ開口へ挿入して下さい。

この時、通線物量に応じて、樹脂スリーブ内側のダンシール-P支持部をペンチなどで取り除いて下さい。



尚、下表の開口寸法に設置する場合は、必ず下図に示す位置にダンシール-Pを取り付けてください。

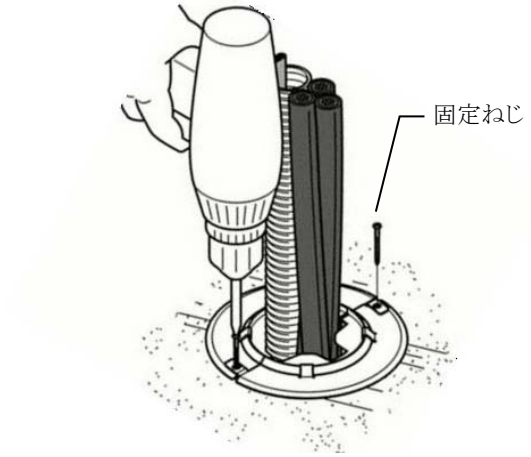
品番	設置開口径(mm)
PW-75	77.5～80
PW-100	105～110
PW-125	128～131
PW-150	154～159



鋼製化粧蓋付き樹脂スリーブ断面図

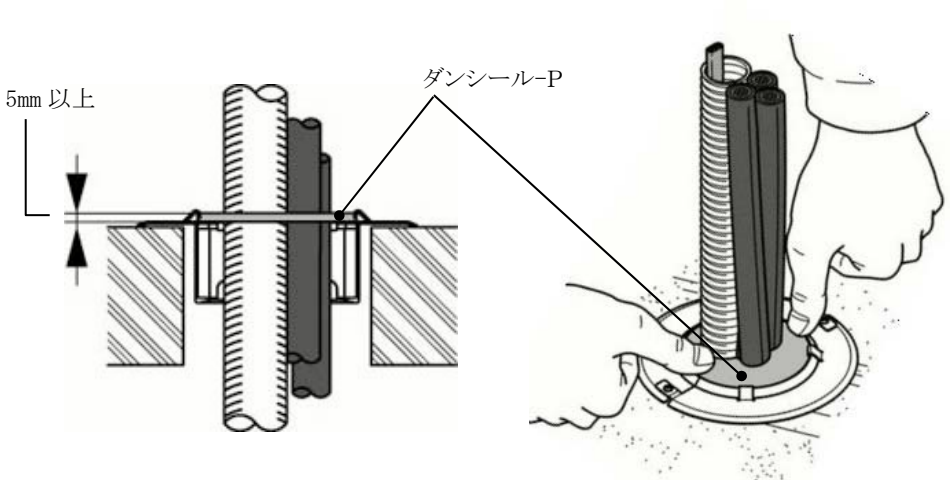
③ 鋼製化粧蓋付き樹脂スリーブの固定

鋼製化粧蓋のねじ孔 2 箇所に、φ3.4 ㎜のドリルで深さ約 48 ㎜まで下穴を開けた後、付属の固定ねじでスリーブを電動ドライバーなどで固定して下さい。



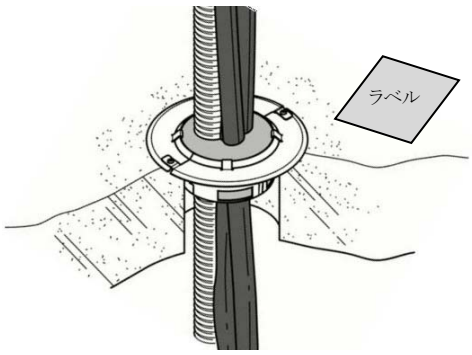
④ ダンシール-Pの充てん

樹脂スリーブと通線物の間にダンシール-Pを厚さ 5 ㎜以上隙間無く充てんして下さい。



⑤ 施工完了

ダンシール-P充てん状況を確認し、表面に凹凸がある場合ならして仕上げて下さい。附属の工法表示ラベルを開口の見える位置に貼り付けてください。



【床上施工例】
鉄筋コンクリート・ALC床
（ケーブル、合成樹脂可とう電線管混在貫通）

6.1.3 防火区画壁　鋼製電線管貫通部

① 施工前の確認

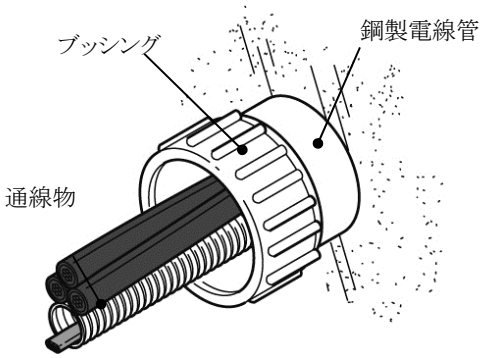
本キット品を 2 組ご用意下さい。また、認定条件に記載の適用鋼製電線管であることを確認して下さい。

●注意事項①

鋼製電線管は、全長 300 ㎜以上必要となります。また、ケーブル保護のため必ずブッシングを取り付けてください（ブッシングは別途ご購入ください）。

●注意事項②

鋼製電線管内の通線物敷設は、内線規程に基づいて行って下さい。尚、単相のケーブルを 1 線(心)のみ収めた場合等は、電磁的不均衡により発熱の原因となりますので絶対に行わないで下さい。

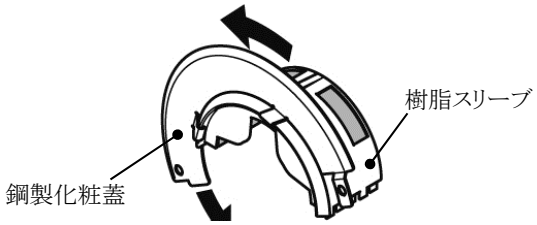


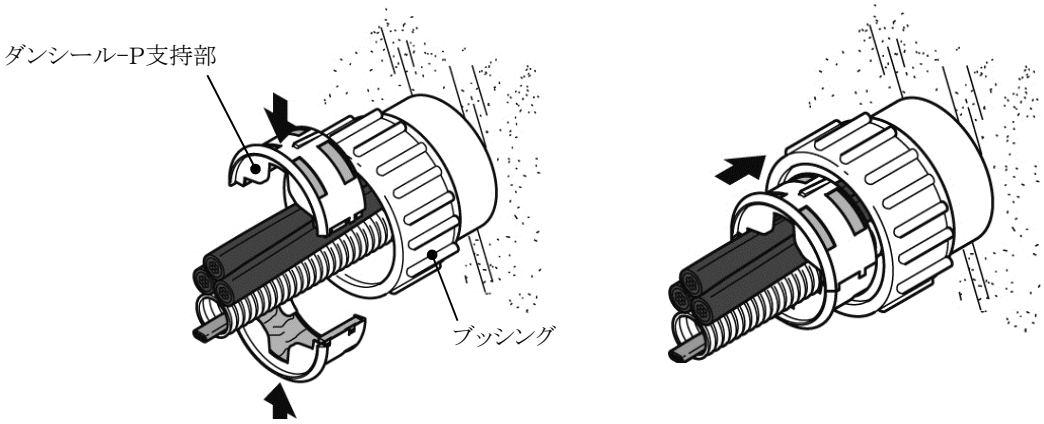
② 樹脂スリーブの設置

下図の通り鋼製化粧蓋を取り外した樹脂スリーブを、通線部に挟んではめ合わせ電線管へ挿入して下さい。また、ガタ付きがある場合、アルミテープなどを巻き付けてしっかりと固定して下さい。この時、通線物量に応じて、樹脂スリーブ内側のダンシール-P 支持部をペンチなどで取り除いて下さい。

<u>鋼製化粧蓋の取り外し方</u>

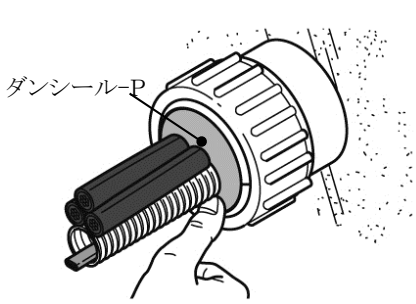
鋼製化粧蓋表面に書かれている「ハズスの矢印」の方向に鋼製化粧蓋を回して取り外します。

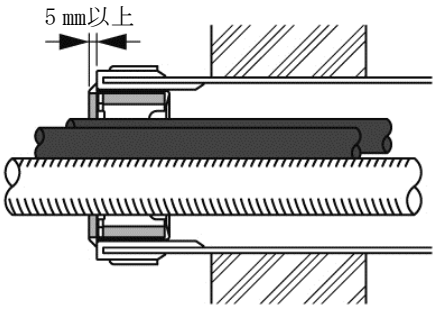




③ ダンシール-Pの充填

樹脂スリーブと通線物の間にダンシール-P を厚さ 5 ㎜以上隙間無く充てんして下さい。





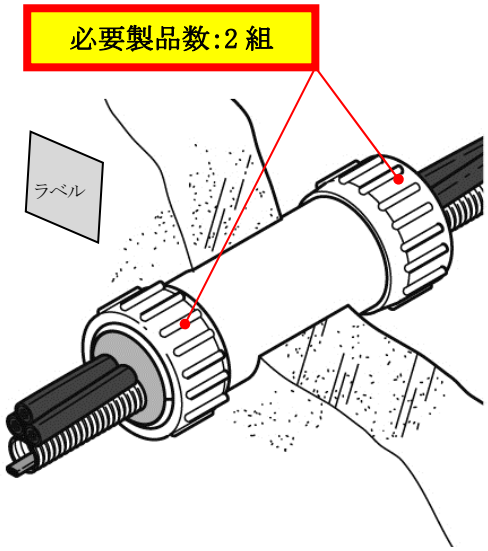
④ 反対側の施工

壁の裏側も手順①～⑤と同様に施工してください。

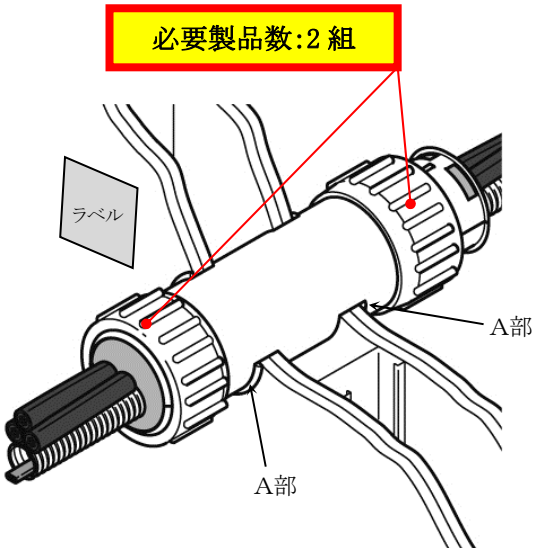
⑤ 施工完了

ダンシール-P充てん状況を確認し、表面に凹凸がある場合、ならして仕上げて下さい。

また、開口部と鋼製電線管の間に隙間（下図A部）がある場合、中空間仕切壁用目地材（石こうボード用目地材などの無機充填材）を用いて隙間が無くなるように埋めてください。附属の工法表示ラベルを開口の見える位置に貼り付けてください。



【鋼製電線管貫通　両側施工例 1】
鉄筋コンクリート・ALC壁
（ケーブル、合成樹脂可とう電線管混在貫通）



【鋼製電線管貫通　両側施工例 2】
中空間仕切壁
（ケーブル、合成樹脂可とう電線管混在貫通）

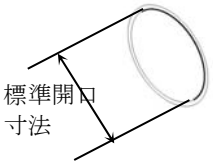
6.2 プチロクワイド消防キット

6.2.1 共住区画壁貫通部

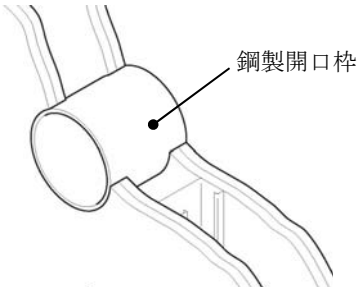
1. 施工前の確認

開口が施工条件に記載の適用開口寸法通りであることを確認して下さい。特に、中空間仕切壁に施工する場合には、必ず図のように鋼製開口枠(板厚≧0.25 ㎜)を設置して下さい。

※PW-125、150 は評定外のため施工できません。



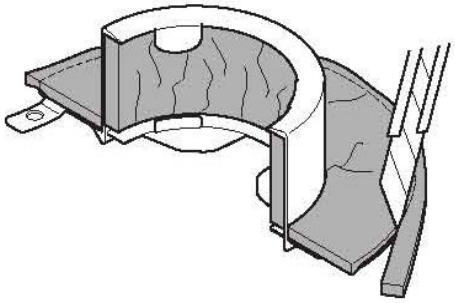
品　番	標準開口寸法 (mm)
PWS-75	φ 75
PWS-100	φ100

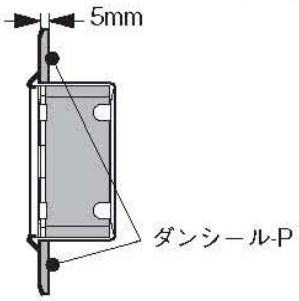


中空間仕切壁貫通部断面図

2. 鋼製化粧蓋付き樹脂スリーブの設置

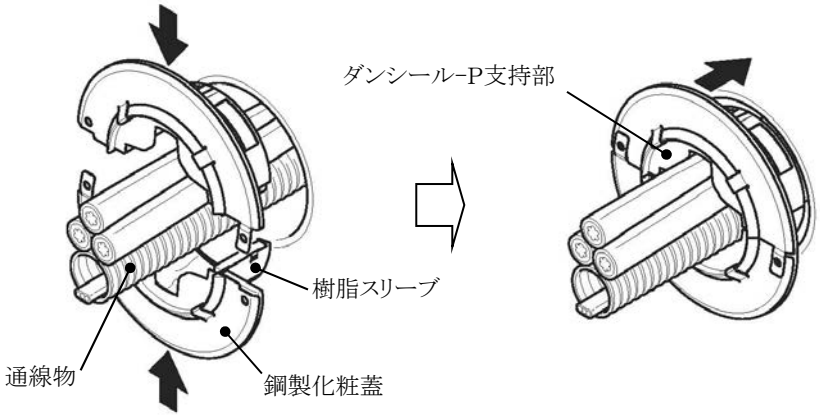
①鋼製化粧蓋の裏面にダンシール-Pを貼り付け、不要な部分はカッターなどで切断します。





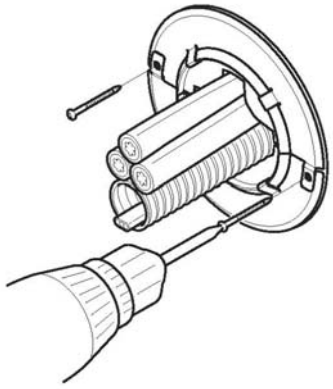
鋼製化粧蓋付き樹脂スリーブ断面図

②鋼製化粧蓋付き樹脂スリーブを、通線物に挟んではめ合わせ開口へ挿入してください。この時、通線物量に応じて、樹脂スリーブ内側のダンシール-P支持部をペンチなどで取り除いて下さい。



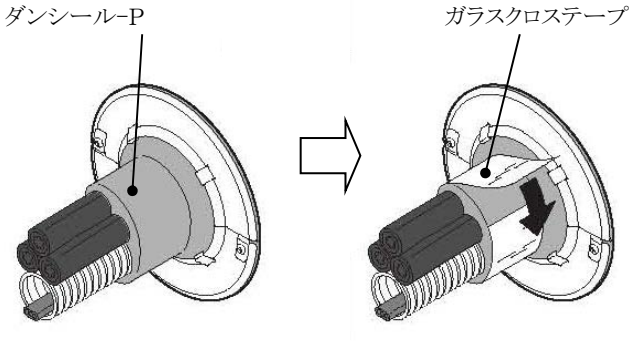
3. 鋼製化粧蓋付樹脂スリーブの固定

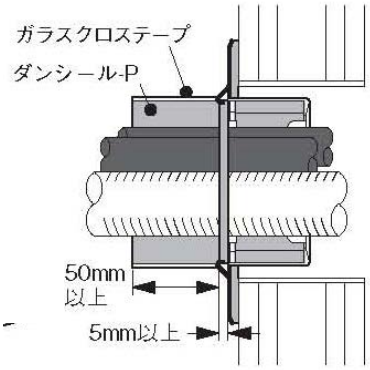
鋼製化粧蓋のねじ穴2箇所に、φ3.4 ㎜のドリルで深さ約 48 ㎜まで下穴を開けた後、付属の固定ねじでスリーブを電動ドライバーなどで固定してください。



④ ダンシール-Pの充てん

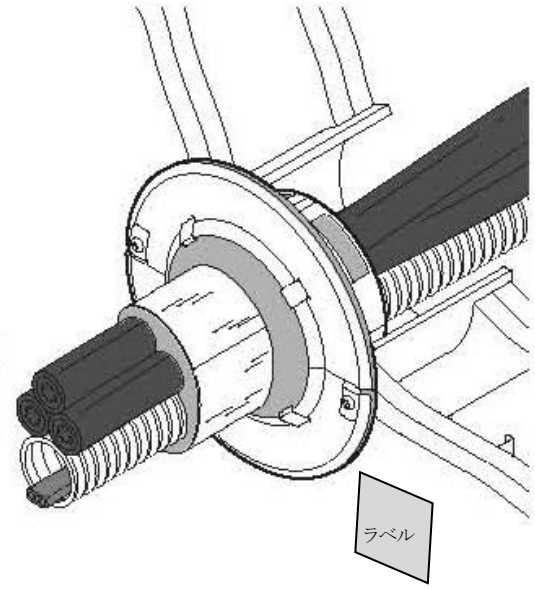
通線物と開口の隙間に付属のダンシール-Pを5㎜充てん後、更に通線物周囲に50㎜以上、幅50㎜部分を当てて巻付けます。50㎜充てん部は、落下防止として付属のガラスクロステープを1周巻き付けます。





⑤ 施工完了

これで、防火措置は完了です。最後に、ダンシール-P充てん状況を確認し、表面に凹凸がある場合、ならして仕上げてください。
附属の工法表示ラベルを開口の見える位置に貼り付けてください。

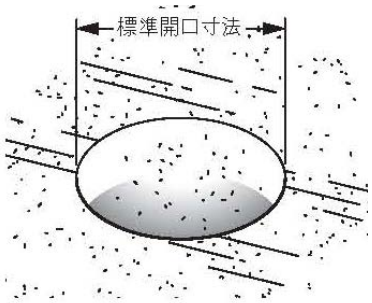


6.2.2 共住区画床貫通部

1. 施工前の確認

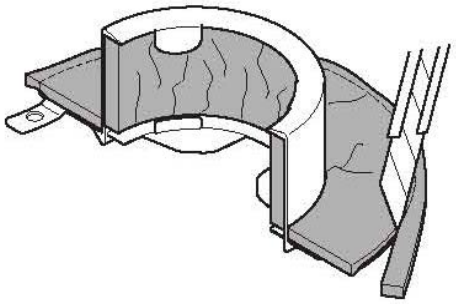
開口が施工条件に記載の適用開口寸法通りであることを確認してください。

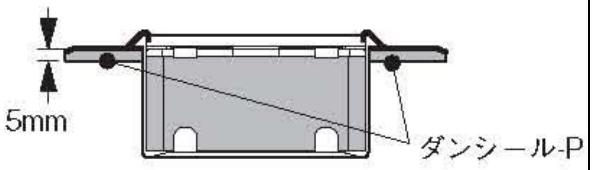
品　番	標準開口寸法(mm)
PWS-75	φ 75
PWS-100	φ100
PWS-125	φ125
PWS-150	φ150



2. 鋼製化粧蓋付きスリーブの設置

①鋼製化粧蓋の裏面にダンシール-Pを貼り付け、不要な部分はカッターなどで切断します。

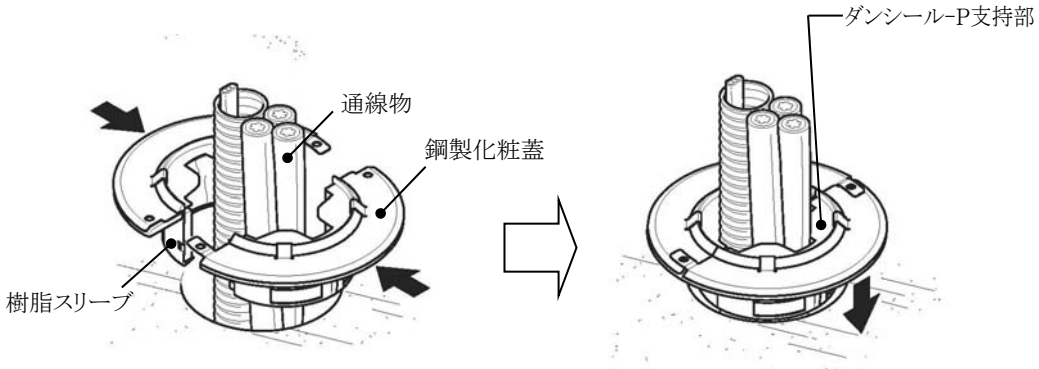




鋼製化粧蓋付き樹脂スリーブ断面図

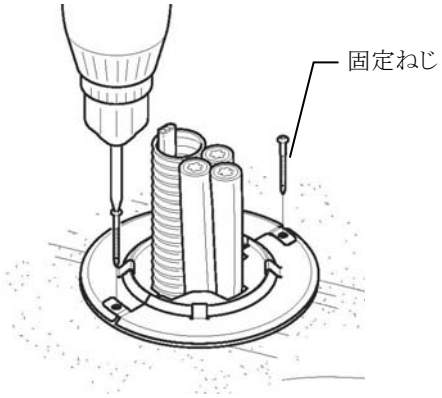
②鋼製化粧蓋付き樹脂スリーブを、通線物に挟んではめ合わせ開口へ挿入してください。

この時、貫通物量に応じて、樹脂スリーブ内側のダンシール-P支持部をペンチなどで取り除いてください。



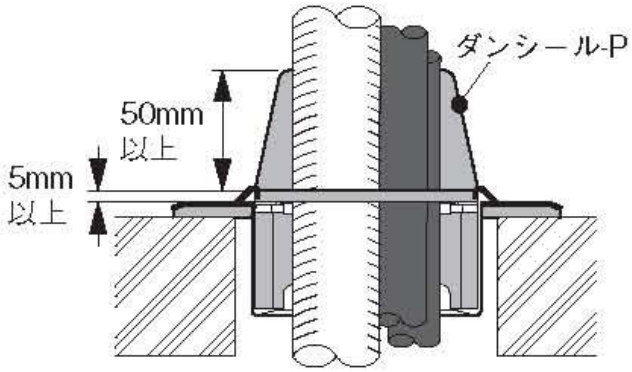
3. 鋼製化粧蓋付き樹脂スリーブの固定

鋼製化粧蓋のねじ孔 2 箇所に、φ3.4 ㎜のドリルで深さ約 48 ㎜まで下穴を開けた後、付属の固定ねじでスリーブを電動ドライバーなどで固定してください。



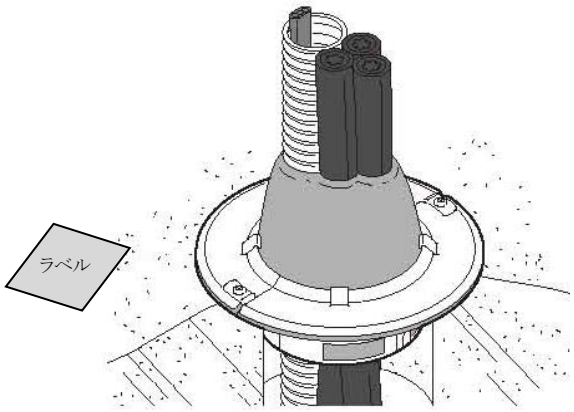
4. ダンシール-Pの充てん

貫通物周囲に付属のダンシール-P（幅 50 ㎜）を巻き付け、樹脂スリーブ端部から高さ 50 ㎜以上隙間無く充てんします。



5. 施工完了

これで、防火措置は完了です。
最後に、ダンシール-Pの充てん状況を確認し、表面に凹凸がある場合、ならして仕上げてください。



7.注意事項

- 取扱説明書やカタログ・施工要領書などに記載された認定条件をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- 施工にあたっては、保護手袋および保護めがね等を必ず着用してください。
- 樹脂スリーブおよび鋼製化粧蓋の尖った部分などでのケガに注意してください。
- 防水、撥水の必要がある箇所については、別途防水・撥水処理を行ってください。
- ケーブルの支持機能はありませんので、貫通部の前後で別途、確実に行ってください。支持固定が不十分の場合、シートのずれ・脱落・隙間が生じる恐れがあります。
- 作業スペース上、開口部は最低 150 ㎜の離隔距離を取ってください。コアドリルを用いる際、仕上がり穴径が類似するサイズ(PW-75 ではφ75 ㎜、PW-100 ではφ100 ㎜、PW-125 ではφ125 ㎜、PW-150 ではφ150 ㎜)を選定してください。
- ダンシール-Pの所要量は、貫通物が最小の場合を想定し、不足の生じないように設定しております。万一、不足が生じた場合には別途ダンシール-Pをお買い求めください。
- 固定ねじの紛失にご注意ください。紛失した場合には同等のものを別途お買い求めください。
- 合成樹脂製可とう電線管内に通線する電線・ケーブル等については、内線規程に従ってください。
- 開口径φ50 ㎜以下の防火措置には、「プチロク」をご使用ください。
- 認定工法外となるため、開口内にダンシール-P 以外のパテを絶対に充てんしないでください。
- 共住区画施工後は、(財)日本消防設備安全センターの規定により、消防評定プレートを貼り付ける必要があります。
- 廃棄する場合、分類は「リサイクルまたは産業廃棄物」となります。また、産業廃棄物として処分する場合、「廃棄物の処理および清掃に関する法律」に従ってください。

8. その他

本要領書記載の内容は、製品改良等のため、お断りなく変更する場合がありますのでご了承ください。

以上

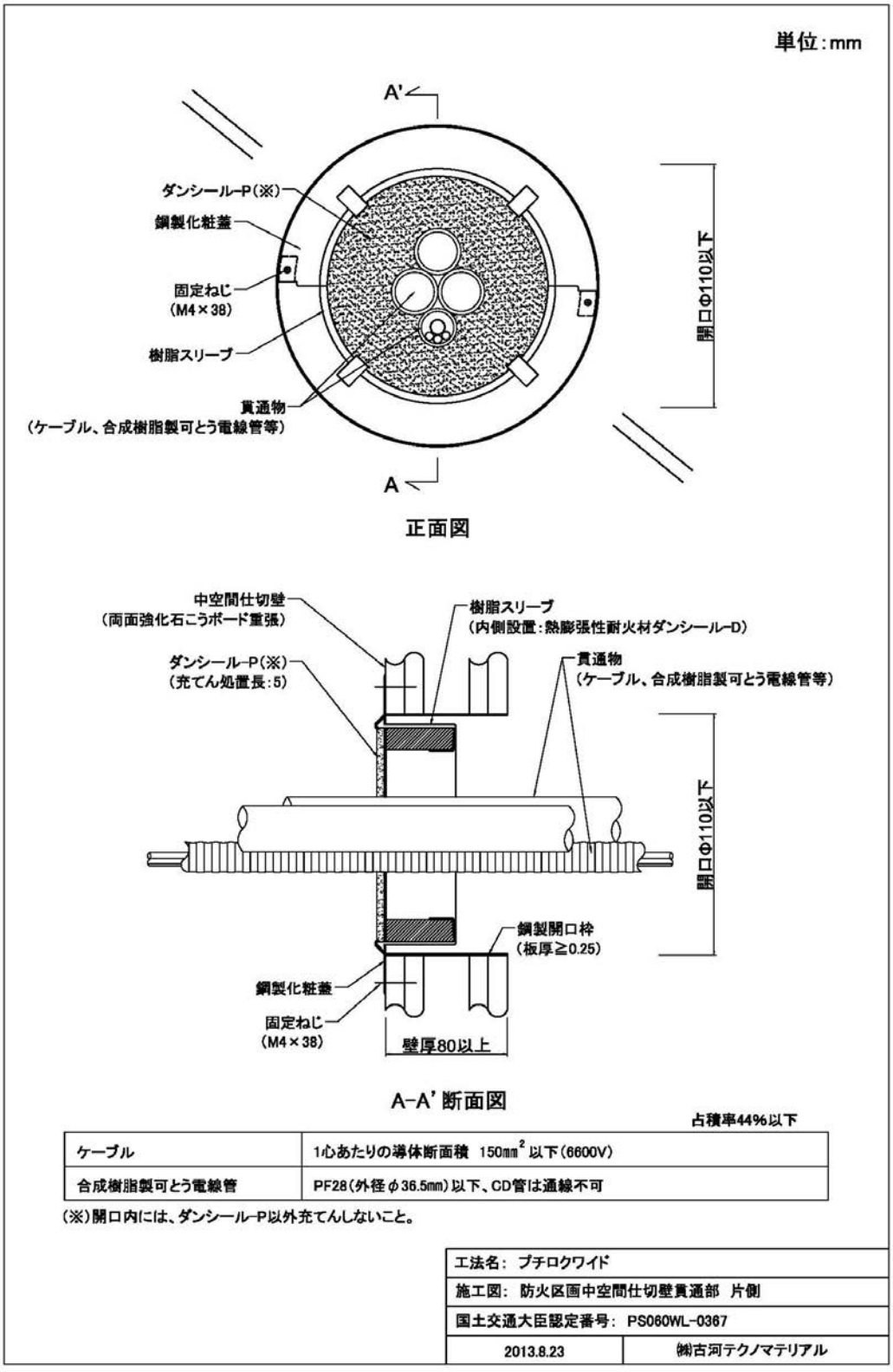


図-2 プチロクワイド 防火区画中空間仕切壁 片側標準施工図

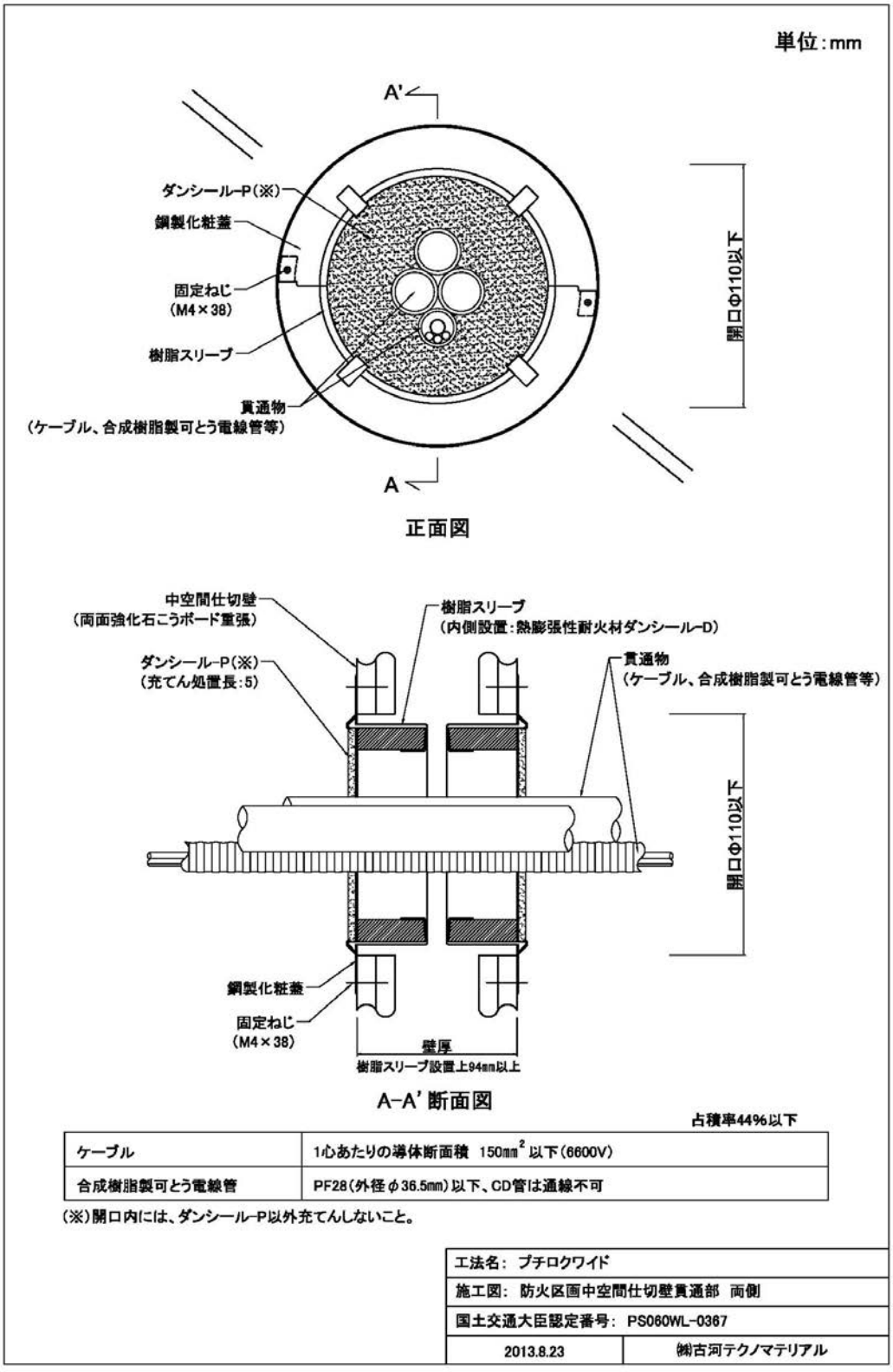


図-3 プチロクワイド 防火区画中空間仕切壁 両側標準施工

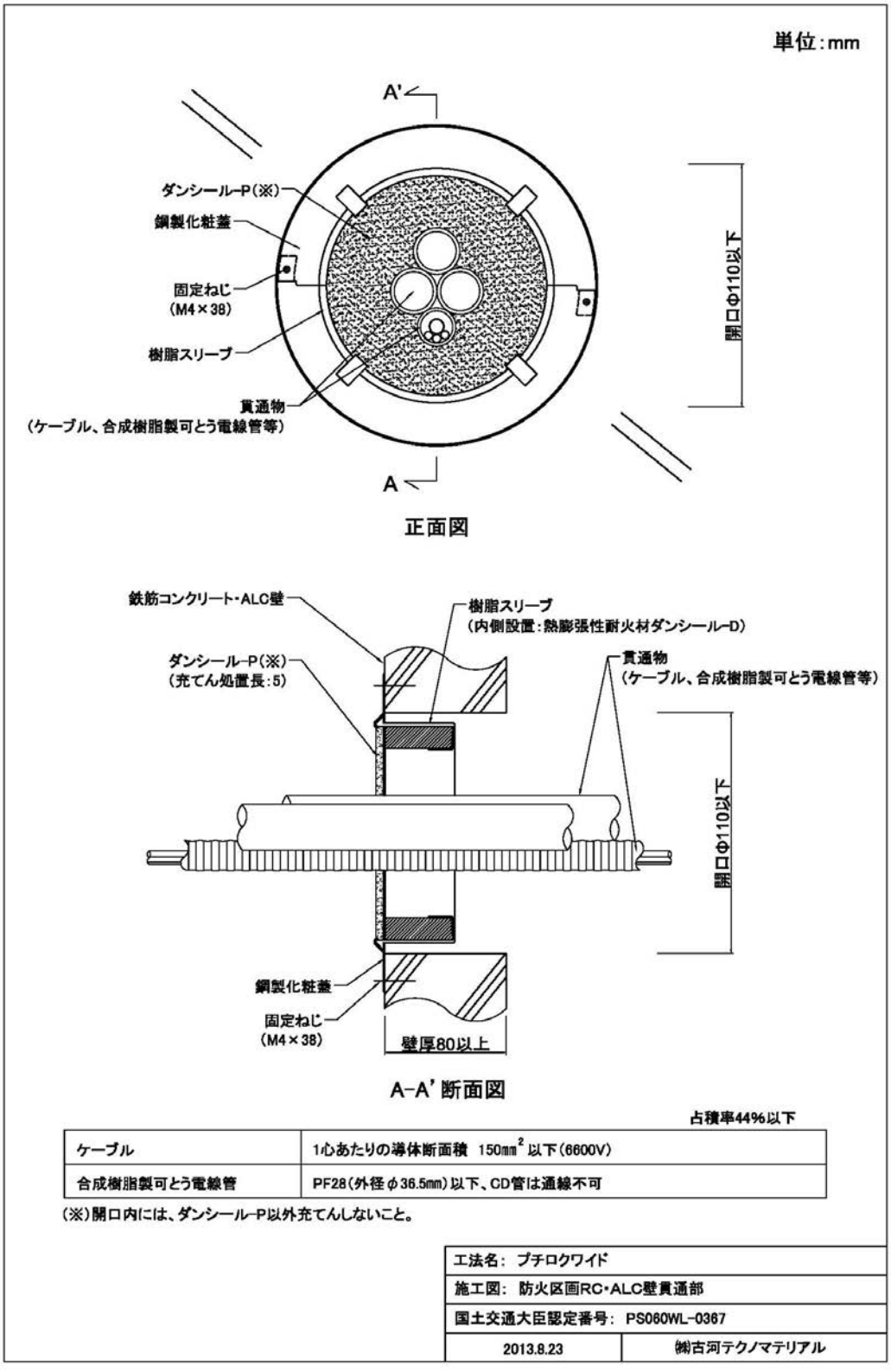


図-4 プチロクワイド 防火区画 RC・ALC 壁 標準施工

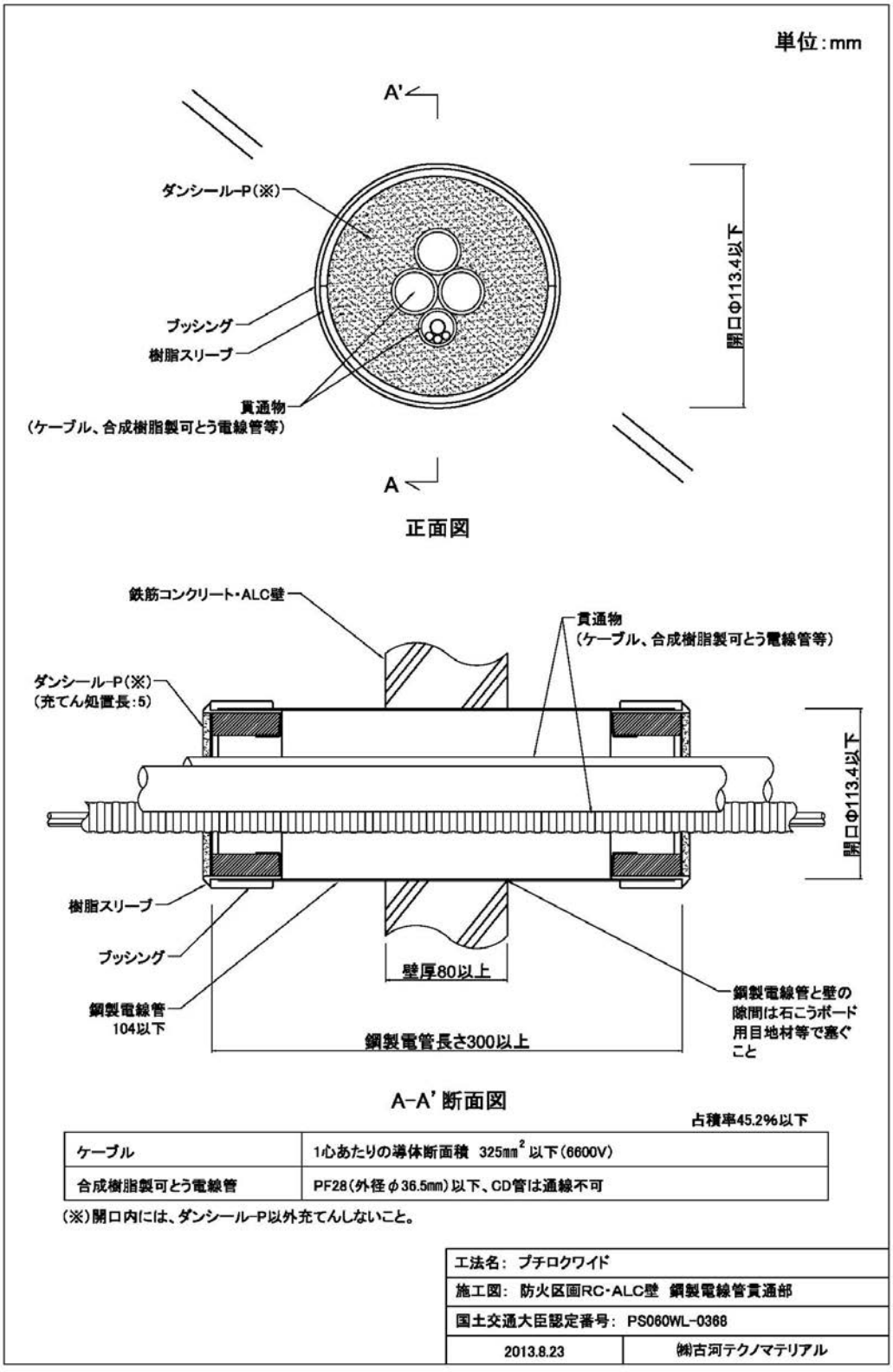


図-5-① プチロクワイド 防火区画RC・ALC壁鋼製電線管貫通部 標準施工

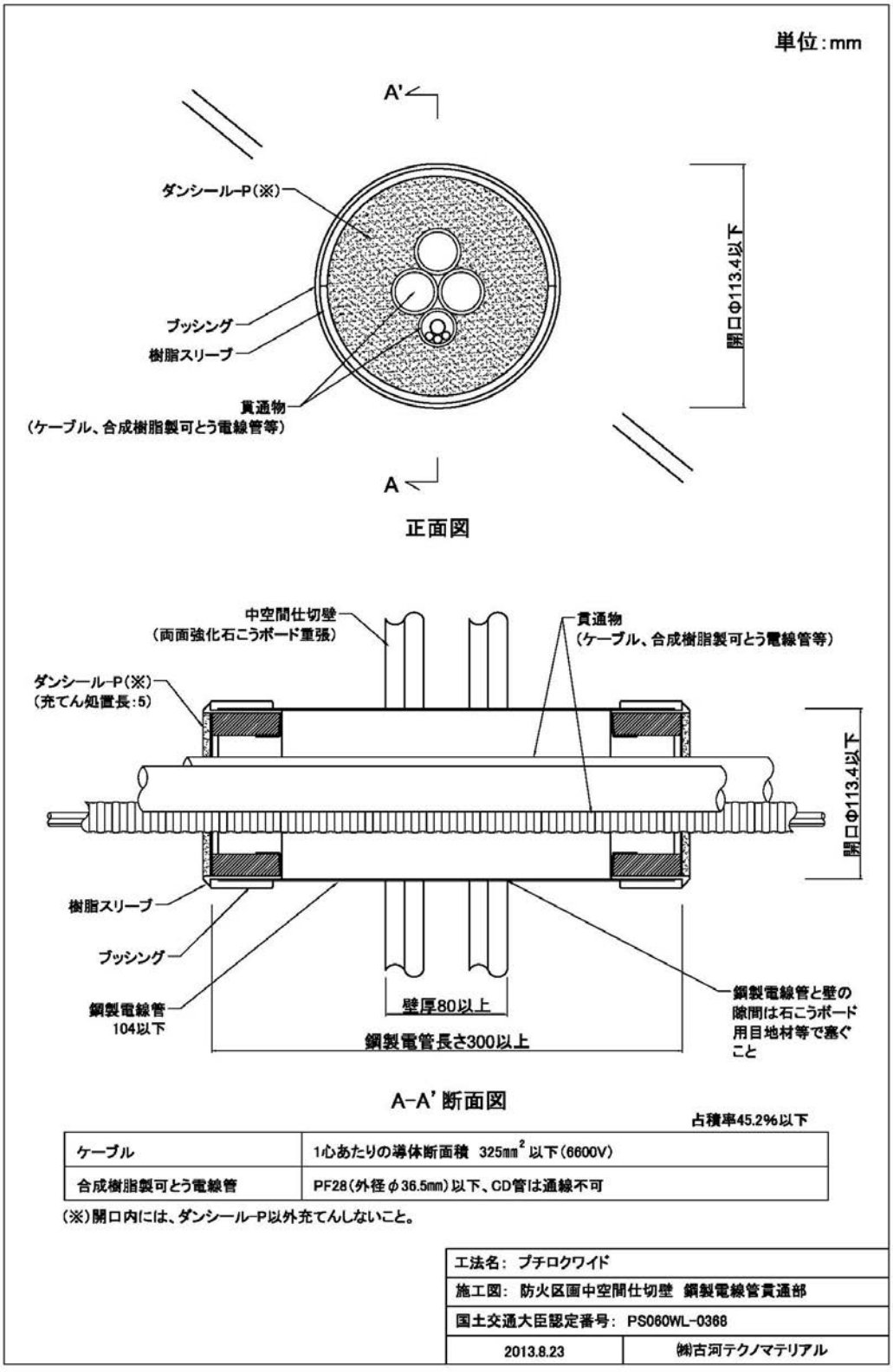


図-5-② プチロクワイド 防火区画中空間仕切壁鋼製電線管貫通部 標準施工

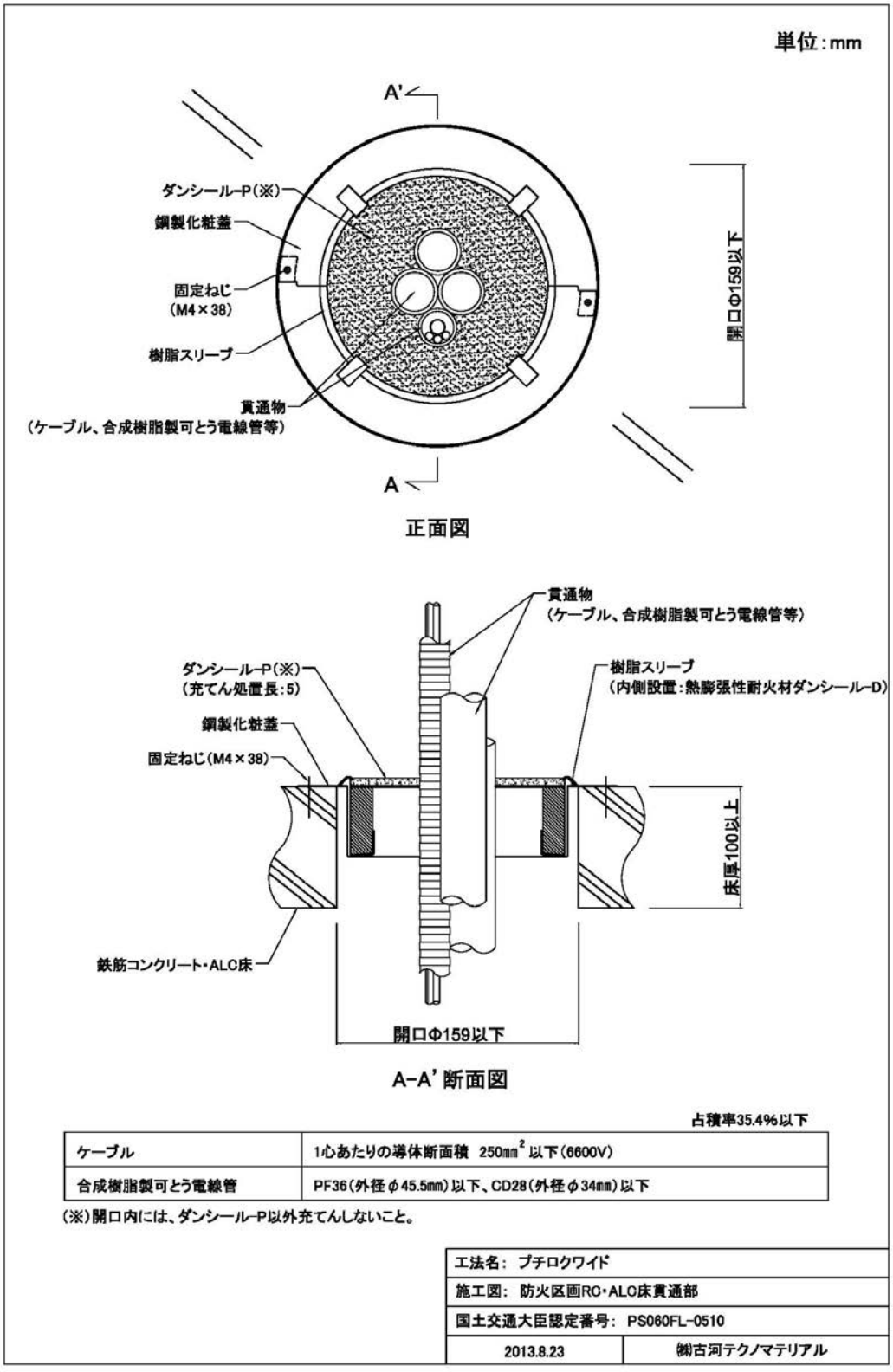


図-6 プチロクワイド 防火区画 RC・ALC 床 標準施工

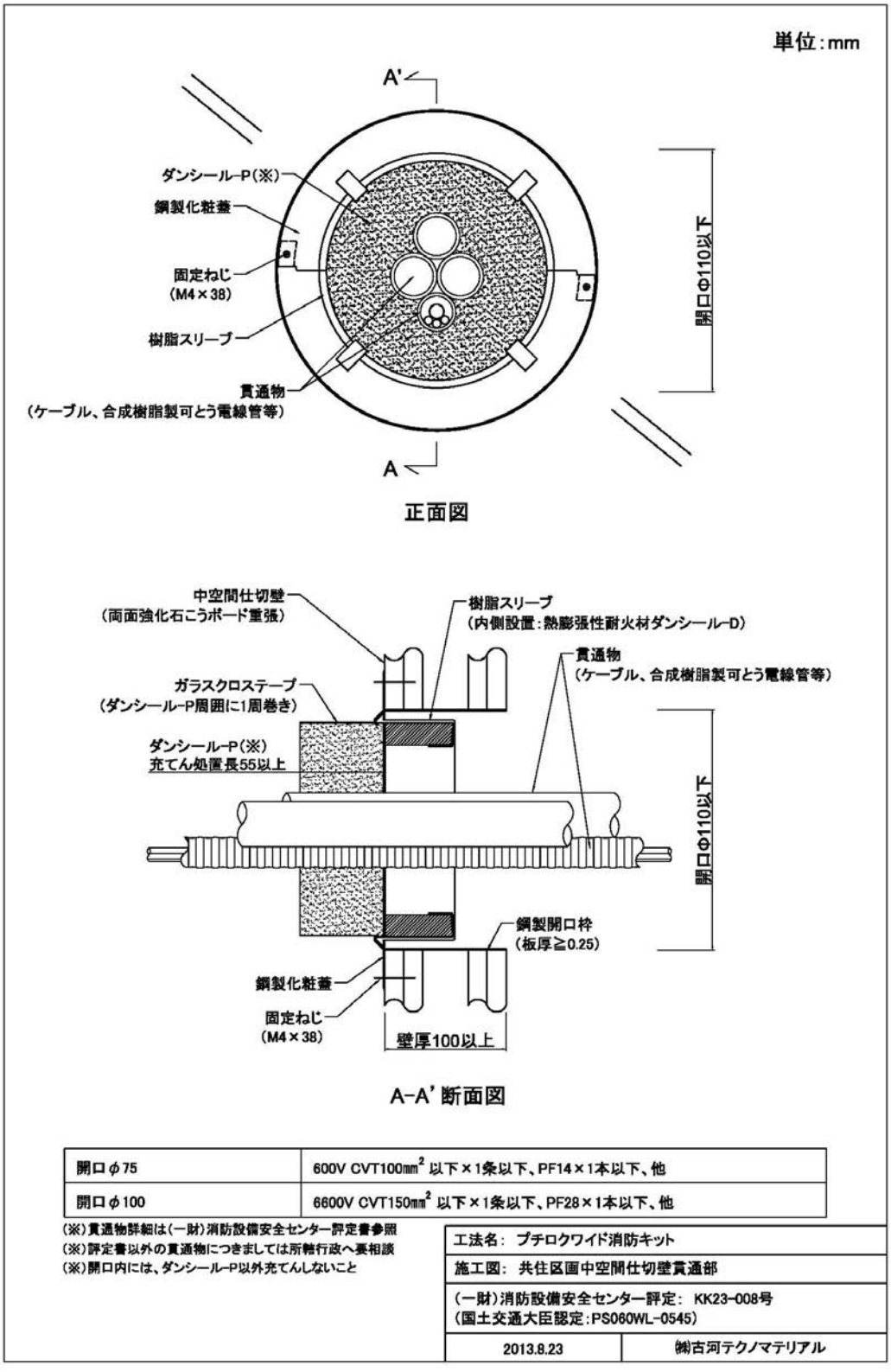


図-7 プチロクワイド消防キット 防火区画中空間仕切壁 標準施工

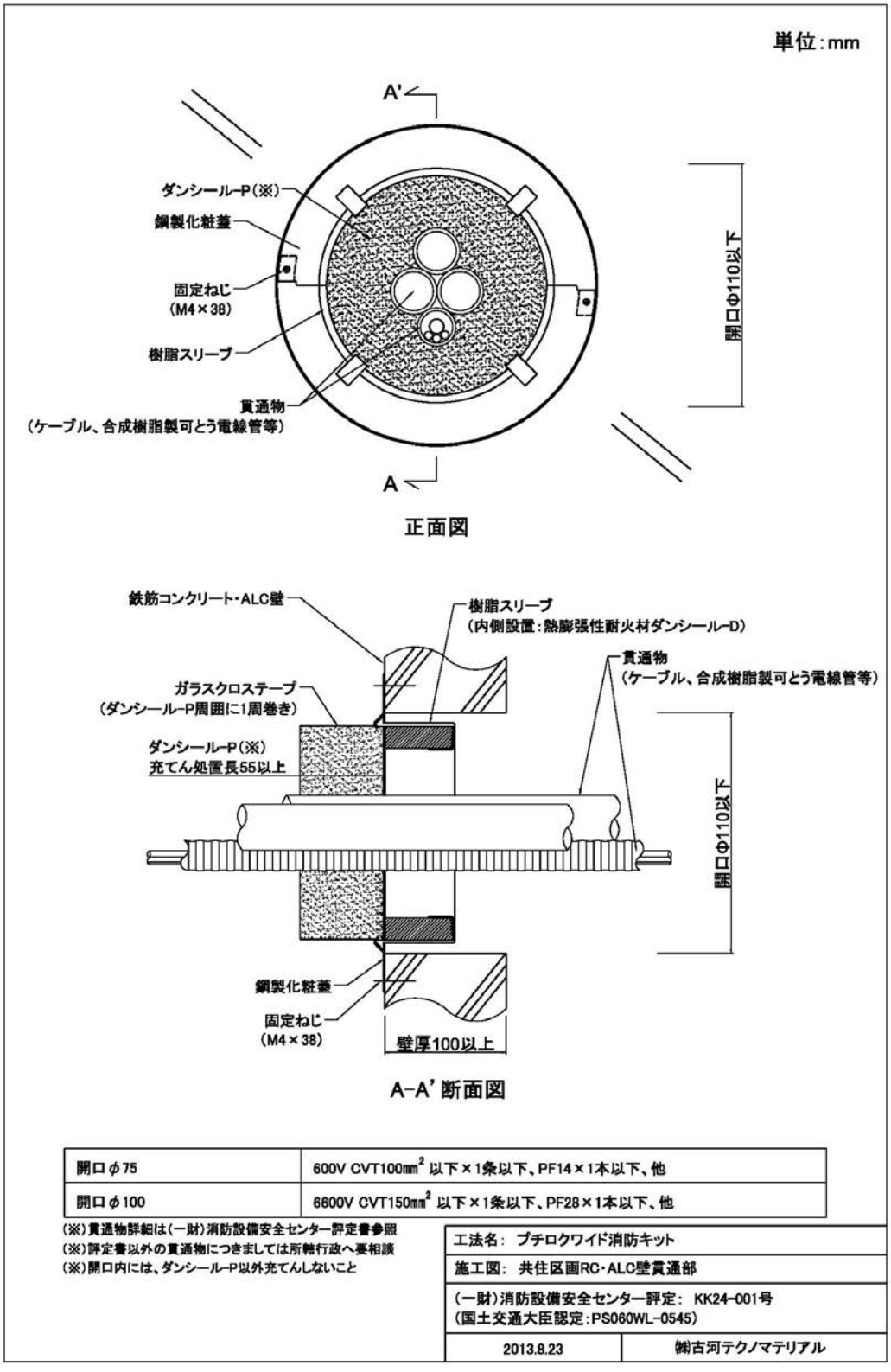
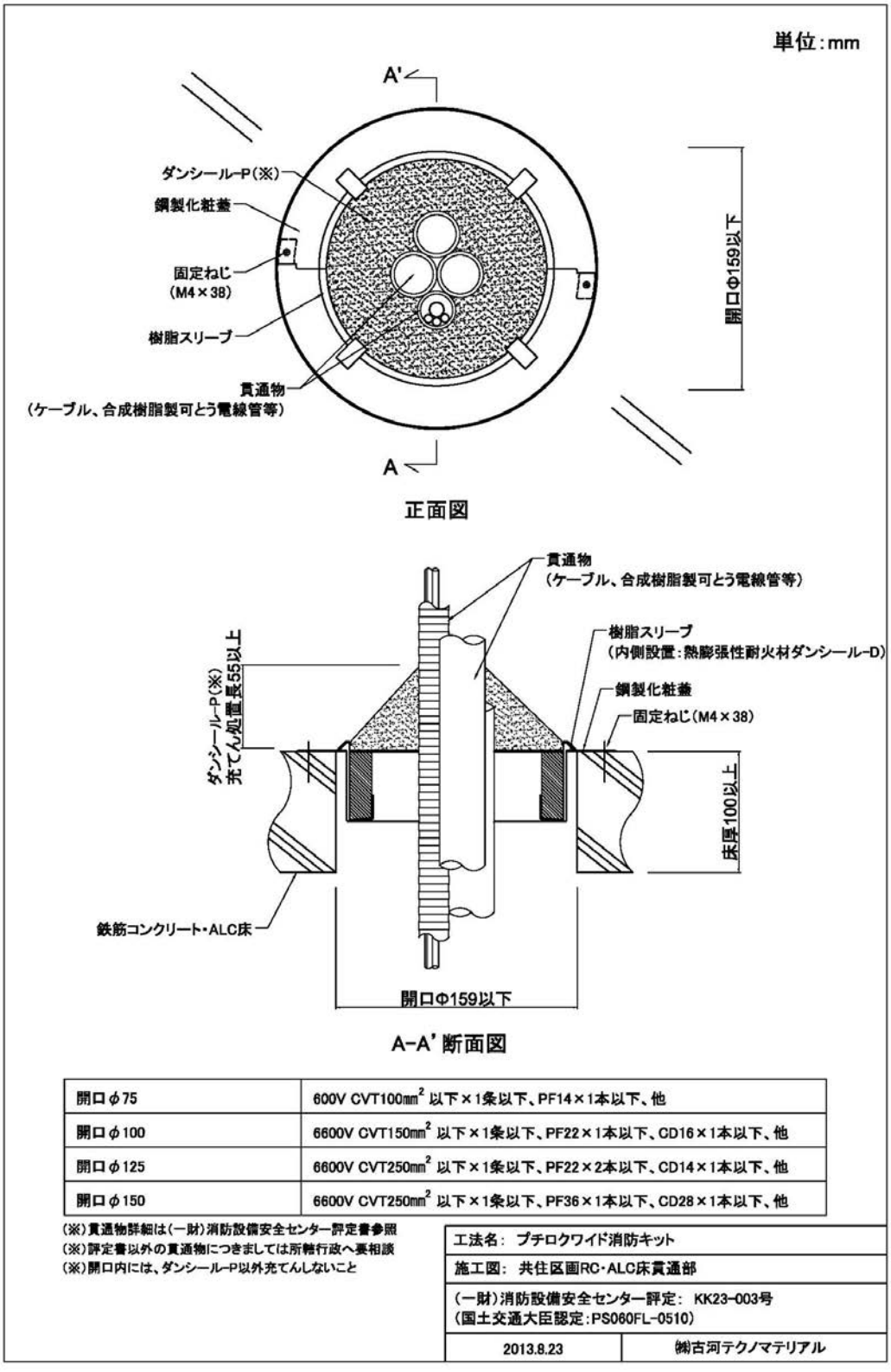


図-8 プチロクワイド消防キット 防火区画 RC・ALC 壁 標準施工



開口φ75	600V CVT100mm^2 以下×1条以下、PF14×1本以下、他
開口φ100	6600V CVT150mm^2 以下×1条以下、PF22×1本以下、CD16×1本以下、他
開口φ125	6600V CVT250mm^2 以下×1条以下、PF22×2本以下、CD14×1本以下、他
開口φ150	6600V CVT250mm^2 以下×1条以下、PF36×1本以下、CD28×1本以下、他

(※)貫通物詳細は(一財)消防設備安全センター評定書参照
(※)評定書以外の貫通物につきましては所轄行政へ要相談
(※)開口内には、ダンシール-P以外充てんしないこと

工法名： プチロクワイド消防キット	
施工図： 共住区画RC・ALC床貫通部	
(一財)消防設備安全センター評定： KK23-003号 (国土交通大臣認定：PS060FL-0510)	
2013.8.23	㈱古河テクノマテリアル

図-9 プチロクワイド消防キット 防火区画 RC・ALC 床 標準施工

安全に関するご注意

ご使用の前に必ず、この「安全に関するご注意」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
ここに示した注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

◆ 図記号の意味は、次のとおりになっています。

🚫	禁止 ： してはいけないことを表しています。
❗	指示 ： しなければならないことを表しています。
⚠	注意 ： 気をつける必要があることを表しています。

⚠ 警告	🚫	床大開口部施工後は踏み抜きに注意してください。貫通部防火措置部の上に乗ったり重量物を置かないでください。
		子供・幼児の手の届くところに材料部材を置かないでください。
		単心の電力ケーブルが貫通する場合は周囲に鉄系の金具を配置しないでください。
	❗	最大開口面積または直径以下で施工してください。
		ケーブル等の貫通物種類および貫通物占積率は取扱説明書および認定書・評定書に従ってください。
		取扱説明書また認定書・評定書に従って施工してください。
	⚠	貫通部防火措置部の仕上がり時は隙間のできないように施工してください。
		液体状のものを扱う場合は保護めがねを着用してください。
		繊維状または粉状のものを扱う場合はマスクおよび保護めがねを着用してください。
		床または壁貫通部の近傍に可燃物を置かないでください。
⚠ 注意	❗	防水性が要求される場合は別途施工してください。
		ケーブルまたは配管類の支持機能はありません。別途固定支持してください。
		施工完了後は工法表示ラベルを表示してください。再施工時は工法表示ラベルを更新してください。
	⚠	耐熱シール材等のパテを扱う際は保護具を着用してください。
		金具を扱う場合は保護具を着用してください。
		特殊な環境下で使用される場合は事前に相談ください。
		材料は貫通部以外の部分に使用しないでください。

免責事項

（1） 防火区画貫通部防火措置が認定又は評定通りの耐火性能を得るためには、施工品質が大変重要になります。これらを施工するにあたり、認定・評定条件、施工方法をよくご理解いただき、施工者及び建物管理者の責任において施工及び維持管理していただきますようお願い致します。

（2） 以下のような場合において問題が生じた場合、当社として責任を負いかねますのでご了承ください。

① 認定・評定条件以外の施工を行った場合（個別の取り決めに依る仕様は除く）
② 弊社指定以外の材料を使用した場合
③ 本来の使用目的以外に使用した場合
④ 再通線、改修工事などにおいて、不適切な施工により問題が生じた場合
⑤ 「安全に関するご注意」を守らなかった場合
⑥ 適切な維持・管理が行われていない場合
⑦ 通常の経年変化（使用に伴う消耗、磨耗など）や経年劣化、またはこれらに伴うほこりによる仕上がりの変化の場合
⑧ 周辺環境に起因する場合（例えば、酸性・アルカリ性のガス、異常な高温・低温・多湿、結露など）
⑨ 躯体の変形など、製品以外の不具合に起因する場合
⑩ 犬、猫、鳥、鼠、蛇などの小動物・昆虫やツルや根などの植物に起因する場合
⑪ 犯罪、いたずらなどの不法な行為に起因する場合
⑫ 戦争・紛争・天災その他の不可抗力による場合（例えば、暴風、豪雨、高潮、地震、落雷、洪水、地盤沈下、など）
⑬ 実用化されている技術では予測不可能な現象、またはこれが原因による場合